

なかに、二月爲如と雅いひたるによりて、如月事物別名と月の字を入れて書る様になれり、又二月得乙

曰橋如同上みえたり、此月を仲春といふは、仲春之月日在釜禮記月令いへるにはじまれり、又降入

と史いへり、又二月曰仲陽と元帝纂要いひ、又令月と張子歸田賦みえたり、異名は和漢ともにいづれも詩

に詠じ、歌によめる句の後世にいたりて、をのづから異名となれるなるべし、しかればますく

月々の名目も、多くなれるならん、たとへば春を青帝といへるを、青皇ともいひ、又春の時氣を青

陽といへるを、後には孟陽、仲陽、載陽ともいへるがごとし、孟陽は正月、仲陽は二月也、陽字の上に

孟仲の文字を加へて、月々に配當せる名なり、陽春などいへるは、たゞ春をいへるなり、月々にあ

てたる名目にはあらず、陽字の義、春といふ意と同じ、初春、仲春といふべきを、孟陽、仲陽といひ、又

春風を陽風といひ、春の木を陽樹と元帝纂要みえたり、

〔日本書紀三〕戊午年春二月キサラキ

〔日本書紀通證八〕二月キサラキ氣イキ更ニル發ル達也、言生

〔曾禰好忠集〕中の春二月のはじめ

わぎもこが衣きさらぎ風寒みありしにまさる心地かもする

〔秘藏抄上〕十二月異名 二月きさらぎ きぬさらき共云也略○中 むめつさ月

〔莫傳抄〕十二月異名 雪消月 梅津月 二月

〔藏玉和詞集〕十二月異名略○中 二櫻梅見月 小草生月 衣更著

〔伊呂波字類抄天象〕三月ヤヨヒ律中姑洗一

〔八雲御抄三〕三月 やよひ

〔下學集上〕姑洗三月 彌生ヤ彌生ヨイ一切草葉芽至此月 桃浪トウラフ三月

〔二中歷五時〕月倭名 三月俗今所謂云風雨共暖草木彌生故稱此月爲彌生